

部書状〔C〕

兩度之御懇書ごんしんしよかたじけなく 辱まじ 拜見仕候、先日者御「道中無レ滞三日目ニ」
 御安着被レ成候よし(由)、「安意大慶あんいだいけい、御宿ニ而も」御満悦まんえつ之御事拝察、「
 元次郎様御事、早速」御遣之思食おぼしめし之処、今月「朔日御宅ニ而も御
 祝」被レ成ニ付、延日御尤ごもつとも之」御事、其よし又御丁寧「被レ仰下、
 辱其御手紙」昨三日届候所、今日「八ツ時過、元次郎様」又御安
 着、船中聊「故障等も無ニ御座ニ候由、」此旨御安堵可レ被レ下候、「
 被レ仰下」候事共一々「承知仕候、冬照方へ」結構成御袴地一卷「
 御惠贈被レ下候段、当人」者勿論家内一同大たい悦えつ、皆々厚宜申上候
 様「申聞候、さて元次郎様」御事、家之次男之積つもり「ニ而御世話可レ
 仕之間、」是又御安心可レ被レ下候、「おさと様・おいと様」へも此
 段厚被ニ仰伝「可レ被レ下候、家内共ニ此事」面白おもしろく、宜申上候様「
 申聞候、時下追々寒じか」威暮かゆく節、随分「御自愛專一ニ可レ仕候、」
 貴地又着到御案「内迄、早々如レ此ニ御座候、」尚追々可ニ申上ニ候、
 頓首とんしゅ

(天保十四年)
十一月四日夜認

守 部

吉 田 秋 主 様

(後略)